

病児・病後児保育施設の整備方針について

(付議の要旨)

第2期世田谷区子ども計画に定める年間利用量を確保するため、病児・病後児保育施設の整備方針を定める。

1 主旨

第2期世田谷区子ども計画に定める年間利用量を確保するため、病児・病後児保育施設の整備方針を定め、その方針に基づき、整備を進める。

2 現状

保育の需要が増大し、保育施設や事業の整備が進む中で、本事業の登録者数が伸びており、特に病児に対応できる「病児対応型」保育施設の利用延人数が多い。

【登録者・利用延数・稼働率の推移】

		23年度	24年度	25年度	26年度
登録者数		6,511人	7,557人	8,538人	9,227人
利用延人数	病児対応型	4,586人	5,759人	6,600人	6,881人
	病後児対応型	926人	833人	890人	993人
定員に対する稼働率 (延利用人数/開設日数)	病児対応型	59.3%	60.7%	56.4%	57.9%
	病後児対応型	26.0%	23.8%	25.1%	28.2%

【第2期子ども計画における需要量見込と整備必要量】

(人日/年)

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
需要量見込み	23,869	24,034	24,052	24,095	24,035
確保の内容(年間利用量)	17,400	19,200	21,000	22,800	24,100
整備必要量	1,800 (300日×6人)	1,800 (300日×6人)	1,800 (300日×6人)	1,800 (300日×6人)	1,300 (300日×4人)

平成31年度の就学前人口推計42,775人をもとに算出。なお、整備必要数は、平成28年度に見直し予定。

3 今後の整備方針

以下の整備方針により、第2期世田谷区子ども計画に定める年間利用量を確保する。

(1)施設区分

「病児対応型」保育施設を整備する。

稼働率は、病気の回復期にある子どもを一時的に保育する「病後児対応型」が25%前後、回復期に至っていない子どもを一時保育する「病児対応型」が60%前後と推移している。「病後児対応型」は、利用人数が少ないことから、「病児対応型」と比較すると1人あたりの運営コストが高い等、運用上の課題がある。

今後は、稼働率が高く、利用延人数の多い「病児対応型」保育施設を整備する。

可能な限り、「医療機関併設型」保育施設を整備する。

「病児対応型」保育施設においては、医療機関に付設される「医療機関併設型」と、協力医師が施設へ巡回して保育を行う「医療機関連携型」がある。

「医療機関併設型」は、利用当日に本体施設の医師を受診した際に、受入の可否を判断できるため、利用の前日や当日にかかりつけ医師等を受診する必要がない。「医療

「機関連携型」は、毎日の巡回や緊急時対応を行う協力医師の確保が要件となっており、協力医師の確保が出来ない場合は、「病児対応型」として開設することができない。

今後は、可能な限り、医療機関に付設される「医療機関併設型」保育施設を整備する。

(2) 今後の整備地区

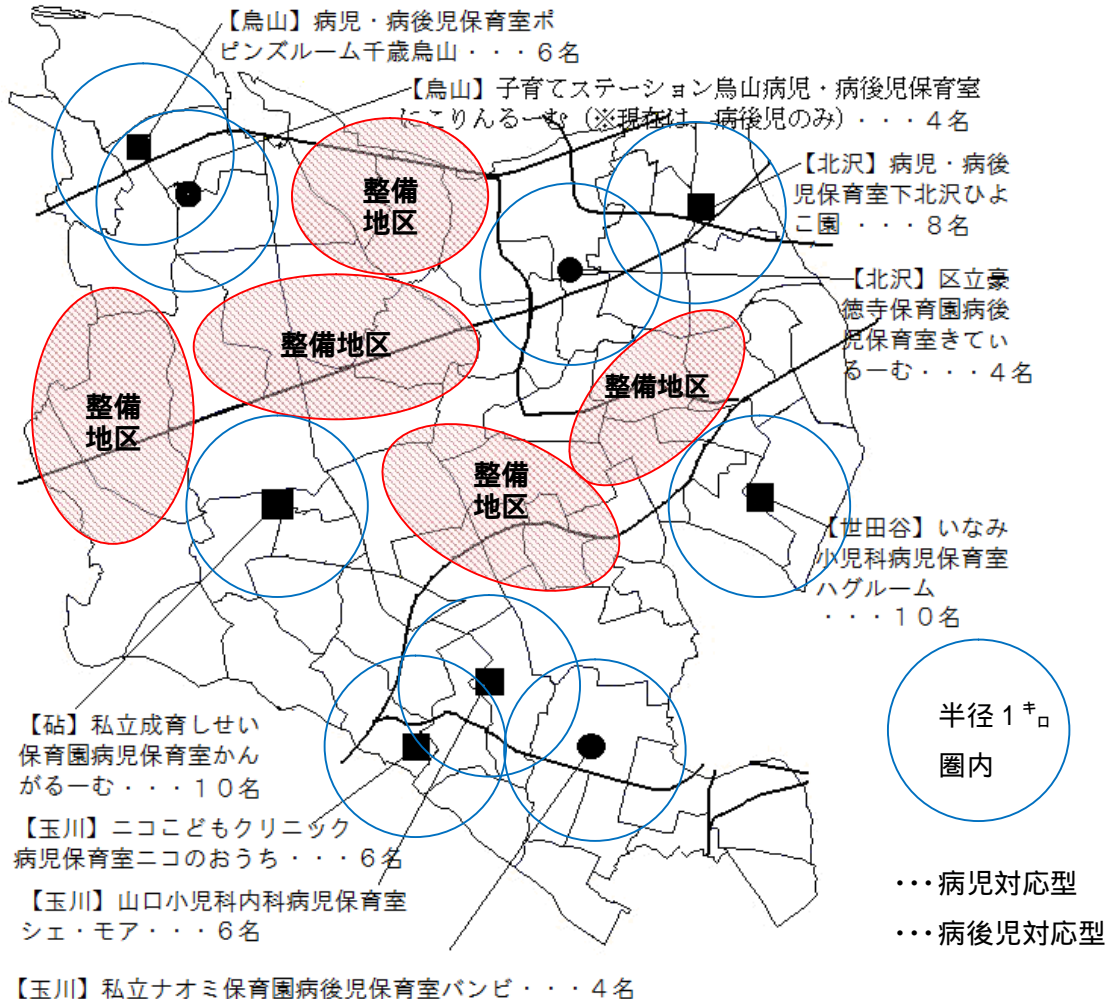
これまで、世田谷区子ども計画後期計画（平成22～26年度）に基づき、各地域には概ね10名程度の定員の病児・病後児保育施設の整備を進めてきた。

今後は、区内全域を網羅することを目指し、未整備エリアである区を中心部や南東部、西部地区の鉄道駅周辺を中心に、各定員6名程度の整備を行う。

地域	施設名	施設区分	定員
世田谷	いなみ小児科病児保育室ハグループ	病児対応型（医療機関併設型）	10名
	病児・病後児保育室下北沢ひよこ園	病児対応型（医療機関連携型）	8名
北沢	区立豪徳寺保育園病後児保育室きているーむ	病後児対応型	4名
	山口小児科内科病児保育室シェ・モア	病児対応型（医療機関併設型）	6名
玉川	ニコどもクリニック病児保育室ニコのおうち	病児対応型（医療機関併設型）	6名
	私立ナオミ保育園病後児保育室バンビ	病後児対応型	4名
砧	私立成育しせい保育園病児保育室かんがるーむ	病児対応型（医療機関連携型）	10名
烏山	病児・病後児保育室ポピンズルーム千歳烏山	病児対応型（医療機関連携型）	6名
	子育てステーション烏山病児・病後児保育室にこりんーむ	病児対応型（医療機関連携型） 現在は病後児対応のみ	4名

今後の周辺の整備状況等を踏まえ、事業実施等についての検討を行う。

【今後の整備地区】



(3)整備手法

各年度、世田谷区医師会、玉川医師会に対し、未整備エリア(各定員6名程度)で事業を実施するために適格な事業者の推薦を依頼する。推薦があった場合は、事業者の適格性審査を行った上で、開設準備や運営に関する経費等について事業者と協議し、施設の開設を目指す。

4 整備方針に基づく平成27年度の具体的な取組み

第2期世田谷区子ども計画に定める平成27年度の年間利用量を確保するため、他の未整備エリアの小田急線沿線からのアクセスがよく、比較的、バス路線数も多い小田急線千歳船橋駅周辺の整備を進める。

(1)施設 「病児対応型」保育施設

(2)地域 小田急線千歳船橋駅周辺

(3)事業形態 医療機関併設型

(4)定員 6名程度

(5)開設予定 平成27年11月以降

(6)予算(第3次補正予算)

歳入予算 13,863千円

内訳：子ども・子育て支援交付金 8,047千円(国1/3、都1/3)

子供家庭支援区市町村包括補助 5,816千円

歳出予算 23,704千円

内訳：開設準備経費 16,232千円

事業運営費 7,472千円(5ヶ月分)

5 今後の予定

平成27年 9月 3日

福祉保健常任委員会

9月中旬

平成27年度第3回区議会定例会補正予算案提出

11月以降

新規施設開設予定